

「同窓会の思い出」

倉科 照子

(高校14回) (旧姓 林) 伊那市在住

母校同窓会は、毎年還暦を迎えた学年が、同窓会総会 懇親会の当番幹事となっております。

2003年度は、私たち14回生が担当とのことで、前年度の会を同期生20名程で下見を兼ね出席し、この時期から結束を強め、4月に 35名程の係りを選出し、10月開催に向けて動き出しました。

講演者には、もちろん同期生の中からと、千葉在住で 語り部として活躍されている、「久保田しげ子さん」 にお越し、懇親会の出し物としては、花笠音頭、与地・富県・扇の三種の伊那節を、踊りの師である 飯島千加江さん宅で猛練習？ に励み、後のお茶の時間を楽しみ、そして迎えた総会前夜の 高遠さくらホテルでの同期会は、卒業以来 初めて顔を合わす友もいて、田中三郎先生、 淵井光久先生を真ん中に、138名の出席者が写真に収まりました。

第二校歌となった“少女草”をなつかしく歌い、“天に雲生む仙丈と ”で始まる現校歌をしっかりと練習し、翌日の同窓会を大成功で終えることができ、これを機にクラス会を続けたり、係りをした仲間と毎年思い出会を開いて親交を深めております。

卒業以来、それぞれの生活に追われ、慌ただしく過ごしてきて、漸く少しゆとりのできてきた還暦の年に、このような集いの時を持つこと、大変良いことだと感じ、ぜひ当番の折には、大勢の方が出席され、旧交を温めてくださるよう望んでおります。

